NPO法人
一関文化会議所 会報
No.29
■平成29年12月20日発行
■NPO法人 一関文化会議所
■〒021-0884 岩手県一関市大手町2-16
一関文化センター内
■TEL FAX：0191-32-4333
4月～9月（火～土） 9:00～17:00
10月～3月（日～木） 9:00～17:00
■E-mail：npo-bunka@ichi-bun.com
■発　行：理事長 内 田 正 好

平成29年度（第27回）一関文化賞表彰式典挙行

文化・芸術の振興、人づくりの活動を顕彰

式　　辞

NPO法人一関文化会議所　理事長　内　田　正　好

表彰式で式辞を述べる内田理事長

読書の秋、スポーツや芸術の秋、そして正に文化の秋といったこの佳き日に、一関市長勝部修様、一関市議会議長槻山隆様、岩手県南広域振興局長細川倫史様、一関市教育委員会教育長小菅正晴様を初めたくさんの御来賓の方々の御臨席のもと、御出席された皆様方と共に平成29年度の「一関文化賞」表彰式を挙行できますことは喜びに堪えない次第でございます。

一関文化会議所ではこの一関地方で、芸術文化・生活文化・地域文化などの各分野におかれまして、素晴らしい御活躍をされ立派な御功績に輝かれておいでの方々を讃え申し上げ表彰させて戴いております。

平成29年度の「一関文化賞」には、地域文化部門で東磐史学会様、人づくり部門で岩手県和算研究会様、同じく人づくり部門で祝い餅つき振舞隊様の三団体の方々を表彰させて戴きます。

三団体の皆様の御経歴や御功績につきましては、このあと担当の者から詳しくご紹介申し上げます。

三団体の皆様方には心からお祝い申し上げ、これを契機とされまして今後もさらに充実した活動に取り組まれ、地域文化の向上と若い世代への継承を目指されて大きく貢献されますようご祈念申し上げて式辞に代えさせて戴きます。

本日は誠におめでとうございます。

平成29年11月14日

受賞された各団体の代表の方々

祝い餅つき振舞隊の皆様

第27回一関文化賞
・地域文化部門　東　磐　史　学　会
・人づくり部門　岩手県和算研究会の3団体を表彰
・人づくり部門　祝い餅つき振舞隊

奨励委員会委員長　只　野　弘　三

第27回（平成29年度）一関文化賞の表彰式は、11月14日、ホテルサンルート一関を会場に執り行い、当地域において文化・芸術の振興、人づくりや活力あるまちづくり等の分野で貢献された３団体を表彰し、その功績を讃えました。

地域文化部門で、長年にわたり東磐井郡内の歴史の調査研究に取り組むと共に、会に籍を置く多くの会員が各町村史の編纂等にも多大な貢献をされてきた東磐史学会。人づくり部門で、江戸時代後期から一関地方の神社・仏閣に多数奉納されている算額（和算）についての調査研究とその普及活動により当地方の歴史文化の振興に功績の大きい岩手県和算研究会。同じく人づくり部門で、活動の根幹に〝人づくり〟を据え、当地方に限らず様々な団体等が実施するイベントや地域づくり活動の場に積極的に参加し、餅つきの実践を通し協調・協働の大切さとその成果を示しつつ一関地方の食文化を発信している祝い餅つき振舞隊を表彰しました。

式の中では、受賞者の方々から表彰に対する感謝と今後のさらなる活動への決意の言葉を頂きました。受賞者の方々のご功績を紹介いたします。

左から、東磐史学会　菅原会長、岩手県和算研究会　菅原会長、祝い餅つき振舞隊　岩渕隊長

【受賞者の紹介】

一関文化賞「地域文化部門」
東磐史学会

東磐史学会は、昭和26年３月に東磐井郡社会科教育研究会会員や郷土史に関心のある方々により、「史学一般を研究するを以て目的とする」として、岩手史学会東磐井支部として発足。通称は「東山史学会」であったが、昭和46年に「東磐史学会」と改称されました。66年に亘る同会の中心的活動として、会員の地道な研究活動の発表の場を継続して設けたことが、会員の調査・研究の意識が醸成され、東磐井郡内の歴史の調査研究が更に進み、地域の歴史の解明がなされ、歴史文化の発掘に大きく貢献しています。

東磐井郡内の自治体史の編纂事業や文化財調査に携わる郷土史研究者の多くが当会に籍を置き、自らの研究活動をしながら、「千厩町史」・「大東町史」・「藤沢町史」・「東山町史」・「室根村史」・「薄衣村史」の調査編纂事業に従事し、中心的役割を果たし、地域の歴史の調査研究の重責を担ってきました。また、各町村教育委員会の文化財保護事業においても文化財保護委員、文化財調査委員として活躍し、合併後の新一関市においても同様の活躍をされております。

会の継続した活動では、毎年、研究発表会や現地研修会を開催し、歴史研究の研鑽を積み重ねてきております。また、東磐地方の歴史の資料紹介や会員の研究発表寄稿を掲載した機関誌『東磐史学』を昭和51年度から休まず発刊し、平成29年度で第42号を数えるに至っています。この間、節目には特集号も発刊し、会員の研究成果の公開を積極的に行っております。

これら会員の地道な歴史調査研究活動は、東磐井郡内の歴史の発掘解明に大きく貢献しており、60有余年に及ぶ地道な活動の功績は大なるものがあります。

一関文化賞「人づくり部門」
岩手県和算研究会

一関地方では、和算家千葉胤秀に代表されるように、江戸時代後期の1800年頃から和算（日本独自の数学）が隆盛になり、昭和初期まで神社や寺院に多くの算額が奉納され、一関市には全国的にも最も多くの算額が現存し、昭和53年刊行の「一関市史」においても第２巻第２章教育・学問第４節和算として節が設けられており、平成９年開設の一関市博物館の展示テーマの一つにもなっています。

岩手県和算研究会は、平成６年に、「和算の調査、研究を行い、会員相互の連絡、協力を目的」として発足し、以来、研究会・講習会・共同事業等の開催や、和算資料等の調査・研究並びにその成果の発表、関係団体への協力等を行い、一関地方の和算の紹介に努めてこられました。

一方、一関市博物館では、近世一関地方の歴史的特徴の一つであり、常設展示テーマの一つでもある和算を多くの方々に知っていただくために、平成14年度から岩手県和算研究会等との共催により、初級、中級、上級の和算問題を選定、出題し、解答を募集、その審査を行い、優秀解答を

表彰する「和算に挑戦」を実施しており、第１回の応募者が58人であったものが第15回となる28年度には1,752人にのぼり、一関の和算が全国的に知られるようになっていますが、これは岩手県和算研究会の協力なしには成し得ないものであります。

また、平成15年度からは博物館との共催で実施している、市民を対象にした和算講座「算法新書を読む」などにおいて講師を担当するなど普段からの和算研究が博物館事業に生かされており、岩手県和算研究会の地道な調査・研究・普及活動は、一関地方の歴史解明、文化の振興に大いに寄与しており、その功績は大なるものがあります。

一関文化賞「人づくり部門」

祝い餅つき振舞隊

平成４年から、民謡教室の新年会・忘年会で（民謡を歌いながら餅をつく）が評判となり、平成６年６月、会員15名全員が一関民謡保存会会員で結成されました。同年、「一関市もち食普及促進会議」から加入を勧められ、以来、餅つきの実演を通し、一関産もち米の普及・販路拡大と〝もち文化〟の継承活動に積極的に取り組み、北は青森から南は沖縄、イタリア・台湾まで、各地で各種イベントに出向き、もち食のＰＲ等、実践活動を継続推進しています。その振舞回数は、平成29年７月末現在、1,269回にも及んでいます。

先人たちの知恵で様々な工夫が施された〝もち〟は、風土や暮らしが生み出した食文化であり、特にも家庭は勿論、おもてなしの食として行事・慶弔・接待等で出され、一関ならではの特長があります。振舞隊は、５名１チーム（臼＜合取３＞、杵＜つきて１＞と歌い手＜１＞）の息の合った〝千本杵〟で、賑やかに大勢で交替しながらのパフォーマンスをし、体験活動や講演会等を織り交ぜ、簡単に出来るもち料理の紹介をしたり、もちの消費拡大に精力的に活動を継続しています。

餅つきは、男女の共同作業であり、農家の風習として受け継がれて600年以上の歴史があります。食生活の多様化とともに、〝もち米〟の需要が年々減少することが危惧される中、「一粒一粒の米がつぶれて一つの餅になる。バラバラではなく一つの結合体になる。これは、協働・協調・連携・助け合い・絆等の言葉が当てはまり、餅の粘り強さと共に、人間社会の生き方に通ずるものがある。」として、「祝い餅つき振舞隊」は、活動の根幹に〝人づくり〟を据え、家庭の融和・仲間との協調・地域の協働などに重点をおいて活動し、その功績は大なるものがあります。

ふるさと学習院には139名が受講

「気仙・本吉の古刹」を現地探訪

事業委員会委員長　工　藤　　武

本年度のふるさと学習院は、一関地方における中世の歴史的痕跡からの学習と位置づけて開催いたしました。

日本の大きな歴史転換となった出来事の一つとして応仁の乱がありますが、この出来事をきっかけに戦国時代に突入したことは日本の歴史認識として定着しています。初回の講座は当地方の戦国時代の幕開けの要因や中世の代表的城館の成り立ち等について「薄衣状」が書かれた背景等を紐解きながら学びました。

本堂講師

また、第２回、第３回の講座にあっては、磐井地方及び気仙地方において平安時代末期から中世以降に地域の人々に信仰拠点として崇められた神社、仏閣等を探訪。

殊にも、今年度は地域の歴史の積み重ねとその流れを身近に体感した学習だったと思います。

東磐井の仏像巡りに参加の方々

現地探訪に参加の方々

ふるさと学習院

回	開催日	内　　容	講　　師	受講者数
1	6月21日	講座　「薄衣状」の世界と磐井郡の代表的中世城館跡	元北上市立博物館 館長　本　堂　寿（ひさ）　一（いち）　氏	33人
2	7月20日	磐井地方の平安末から鎌倉期を見る ～東磐井の仏像巡り～		40人
3	9月21日	現地探訪　「気仙・本吉の古刹」を訪ねる		44人
4	10月18日	講座　岩手の蘇民祭と蘇民将来信仰	地域文化学研究所（金ケ崎） 所長　千　葉　周（かね）　秋（あき）　氏	22人

研修・視察事業

「特産の紅花と最上の船運が培い育んだ地域文化（山形県村山地方）の探訪」

総務委員会委員長　安　東　正　利

今年度の研修・視察事業は、梅雨期という季節外れの時期に台風が列島を横断する気配が濃厚となった７月４日、大雨注意報発令中の分厚い雨雲を憂いながらの山形路でしたが「願（がん）叶い　荒梅雨が　一休み」（安東　芭蕉）という状況となり安堵いたしました。

今回視察に行って気づいたのですが、松尾芭蕉が奥の細道を行脚し村山地方に滞在したのは旧暦５月17日から約10日、今年の暦では７月10日からの10日間となります。

最初に最上川美術館を訪れ、真下慶治の豊かな最上川を題材とした絵に故郷への想いと安らぎを感じ、昨日からの雨（五月雨）を集めた最上川を観て、芭蕉行脚の心を身近に、そして、いくらかでも触れることが出来たと感じたのは私だけでしょうか？

参加の方々（１号車）

参加の方々（２号車）

「東大生出前科学授業」・「ふるさと子ども探検隊」

子ども委員会委員長　伊　藤　勝　義

市内中学校生徒を対象として実施し、好評を博している「東京大学生ＣＡＳＴ」のメンバーによる「東大生出前科学授業」を、９月６日、７日の両日において藤沢、一関東、川崎の各中学校で開催しました。生徒からは、「科学の楽しさ、不思議さに興味を持った」「普段なかなか体験できないことが体験できた」「仕組みを解り易く教えてもらった」等多くの感動・感激の言葉が寄せられ充実した気持ちを感じています。

一方、小学児童を対象として実施してきた「ふるさと子ども探検隊」事業は、探検場所を旧東磐井地方にある史跡等を巡る企画でしたが申込みが芳しくなく、やむなく未実施となりました。この要因の分析を充分検討して来年度につなげていきたいと考えております。

東京大学生ＣＡＳＴのメンバーと説明を聞く生徒

平成29年度 ＮＰＯ法人一関文化会議所子どもスペシャル

春休み親と子のコンサート

音楽の絵本

～ズーラシアンブラスと弦（つる）うさぎ～

指揮者のオカピをはじめ、演奏するのは、
すべて希少動物という金管五重奏「ズーラシアンブラス」。
そして弦楽四重奏の「弦（つる）うさぎ」。

本格的なクラシックから、映画音楽に童謡まで、動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみ下さい。

★と　き：平成30年３月24日（土）　開演14時00分
★ところ：一関文化センター　大ホール

【チケット全席指定】
前　売　平成29年12月13日（水）～
入場料　前売　子ども（３歳から中学生まで）500円
　　大人　1,000円
　　当日　子ども（３歳から中学生まで）600円
　　大人　1,300円

・３歳未満は保護者１名につき１名まで膝上鑑賞無料（着席鑑賞は有料）
・チケットは一関文化センター、さとう屋楽器店、小原書店、コンビニなどでお求めいただけます。